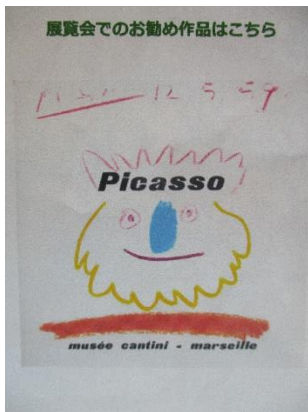


## ピカソ・ミロ・ダリ スペイン三大巨匠の作品展

翠波画廊（銀座の絵画販売・買取を業とする会社） 2019. 08. 05～17

絵画の歴史に革命をもたらした天才「ピカソ」、生命力あふれる抽象表現の異才「ミロ」、シュルレアリスムを代表する奇才「ダリ」の20世紀を代表する3人は、同じスペイン生まれで世界的な画家として多くの作品を残している。



ピカソ 《顔》  
パステル 1959年



ミロ 《エジプト紀行V》  
銅板 1985年



ダリ 《キャリア&アイヴス  
アメリカのヨットレース》  
リトグラフ 1971年

「パブロ・ピカソ」(1881～1973)は20世紀最大の芸術家で、一つの表現で満足することなく“常に新しいスタイル”を生み出してきた。これまでの絵画の固定概念を覆し、ペンや墨、鉛筆などの肉筆画、熱中して制作をした「セラミック」に、「リトグラフ」や「銅版画」の版画作品までを紹介している。

「ジョアン・ミロ」(1893～1983)は、2000枚以上の油彩の他に版画、彫刻、壁画、舞台装置などを手掛け、作品は、星、月、動物などの素朴なモチーフが多くて、これらの自由な発想が感じられるものからは、デフォルメして原色を基調にした色使いや溢れる生命観などで独自の地位を築き「異才」とされる。

「サルバドール・ダリ」(1904～1989)は、現実にはあり得ないような世界を写実的に描いて一躍人気となった画家で、この奇抜な作家像自体も自己表現として創作活動に位置付けて、絵画以外にも様々な分野で活動の幅を広げ、人間の深層に潜む真理を表現し続けた「奇才」とされる画家である。